

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

巻頭
Photo

高尾山のいきものたち

ミヤマホオジロ (ホオジロ科)



黄色い喉元が鮮やかな鳥。全長は16cm程で、頭には冠羽があり、雄の喉元と目の上の黄色が目立つ。雌の眉斑や喉元は黄褐色をしている。日本には、10月頃、ほぼ全国に飛来する冬鳥で、4月頃に中国やロシアなどに渡って繁殖する。

平地から山地の林、農耕地、草地などに棲み、緑の多い都市公園でも稀に見られる。冬は、小規模な群れで生活し、草地に近い林縁などを低く飛び、地上で採食する。警戒心が強く、危険を感じると樹上や藪へ逃げる。地鳴きは、「チッチッ」。食性は雑食だが、冬は主に地表に落ちているイネ科やタデ科など様々な植物の種子を食べる。日本の山野に生える多様な植物の目立たない種子が、ミヤマホオジロの冬越えを支えている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.78

高尾山の地衣類 コフキチリナリア (ピンゴケ科)

599ミュージアム敷地内の地衣類



木にべったりとくっ付いていて、誰もがその脇を通っているのに誰も気が付いてくれない。環境が悪くなるとその数は減っていくが、最近は環境が良くなっているのか数は増えてきている。いつでもどこでも観察できる場所にあるのに、素通りだ。

コフキチリナリアは緑藻を共生藻として灰白色から淡緑色の葉状地衣類である。裂片は幅1mm程度、中央部は密着し、先端は分離する。裂片の中央部に円形の粉芽塊を多数つける。

地衣類は藻類と共生関係を築くことのできる真菌類です。きのこの仲間でもあります。

地衣類は3つの特徴をもちます。

1. 藻類が光合成を行い栄養を真菌類に与える代わりに真菌類が住みかをつくる
2. 協力して地衣成分を作って有害な紫外線や外敵から身を守る
3. 色んな環境に適応することができる。

(富)



森林教室

調布市立 富士見台小学校

10月27日（金）、調布市立富士見台小学校5年生71名の森林教室を、高尾森林ふれあい推進センター展示室及び庁舎前広場で実施しました。

児童たちはお昼前にセンターに到着し、599ミュージアムの芝生広場などで少し早めのお弁当を食べ、12時半から展示室で森林学習を実施する組と、丸太切りをする組に分かれてそれぞれ45分、交互に実施する予定でスタート。

森林学習では森林官をはじめとした私たち林野庁職員の仕事のことや森の動物たちのこと、水を貯えたり土砂の流出を防ぐなど森林の機能や役割、何度でも育て利用することができる循環利用が可能な資源である森林を守り・育てる林業についてのお話で、みんな真剣なまなざしで学んでいました。

丸太切りは、広場でスタッフの指導を受けながら、最初はうまく切れない子もいましたが、だんだん上手に切れるようになり、切った輪切りの皮を剥いで匂いを嗅いだり、薄切りの輪を日にかざして「きれい〜」と歓声を上げたりと皆楽しくセンターの森林教室を体験していました。（瀬）



森林教室

世田谷区立 松沢小学校 -2-

台風のため延期となっていた世田谷区立松沢小学校5年生68名の森林教室を10月30日（月）に行いました。雲ひとつない森林教室日和となり、児童代表から「台風で中止になり残念でした。今日は楽しみにしていた森林教室です。森林の働きや生活との関わりについてしっかり学びましょう」との挨拶でスタートしました。

本当に楽しみにしていたようで6班に分けて実施した午前中の森林観察は、各班ともとても元気がよく賑やかで、案内する職員も大きな声で説明しながらあっという間に森林観察終了となりました。

午後は、2班に分け森林学習と丸太切りを交互に実施しました。森林学習では、地球温暖化や森林の働き等についてメモを取りながら学び、丸太切りでは、家族全員分が欲しいと時間ギリギリまで頑張り4枚、5枚と切った児童もいました。閉校式では「都会では見られない色々な植物や沢ガニを見ることができて楽しかった」「森林観察で森林が大事だということが分かった。自然を大切にしていきたい」「学習で地球温暖化について学ぶことができて良かった」「丸太切りは難しかったが、だんだん慣れてたくさん切ることができうれしかった」等々の感想が次々に発表され、多くのことを学び、様々な体験ができたことで楽しい1日を過ごすことができたようです。

帰りには「楽しかったです」「また来たいです」と見送るスタッフに手を振りながら元気に帰って行きました。（谷）



森林教室

西東京市立 谷戸小学校

11月9日（木）、西東京市立谷戸小学校5年生52名を抜けるような秋空の中高尾山日影沢キャンプ場に迎えて森林教室を実施しました。

午前中は森林観察です。スギやヒノキの葉っぱに触れて違いを確認したり、人工林と天然林の違い、針葉樹と広葉樹の生長の仕方の違いなどについて学習したり、カヤの葉っぱやレモンエゴマの匂いに驚いたり、水が滴り落ちる林内で、緑のダムとしての森林の機能についての説明に聞き入っていました。また、小川で沢蟹を探したり草笛に挑戦するもなかなか音が出ず悪戦苦闘したりと、日頃はなかなか経験できないことが体験でき楽しい森林観察となりました。

午後は、森林学習と丸太切りです。2グループに分かれて交互に実施しました。森林学習は、管理棟の中で森林の役割や持続可能な資源である木材を生産する林業について学びました。丸太切りは、キャンプ場の広場でスタッフの指導を受けながら、みんな真剣に一生懸命切っていました。切り落とした瞬間、みんなニコリ満面の笑みを浮かべ満足そうでした。

木々の葉は一段と色付き秋の気配が段々と深まる中での森林教室となりました。（瀬）



森林教室

西東京市立向台小学校 -1-

11月10日（金）、西東京市立向台小学校5年生の児童66名が森林教室に訪れました。向台小学校は一学年の人数が多いため、2日間に分けての実施となりました。

当日は途中から雨も心配されたことから、ブルーシートで簡易なテントを設置し児童を迎え入れました。テントの下での開校式後、さっそく森林観察に出発です。幸い本降りにはならず、スギ・ヒノキの人工林を見ながらの林業の話や色々な種子散布方式を持つ植物の話の聞きながら、実物を触ったりにおいをかいたり。小沢に出たところでは、森林の持つ重要な役割である「みどりのダム」を実感してもらった後、サワガニ探しです。だいぶ寒くなってきたので沢山は見つかりませんが、それでも一人が小さなサワガニを見つけると、皆でキャーキャー言いながら代わる代わる手のひらに乗せて観察していました。

午後はヒノキ間伐材を使った丸太切り。山から伐り出して2～3週間しか経っていない丸太なので細くても結構な重さです。一人ずつ持って重さを体感してもらいました。切った輪切りは児童が家に持ちかえり。職員から「持ちかえった輪切りをいつも身近に置いてかおりを楽しんだりコースターとして使うなどして木に親しんでくださいね。」と話すと児童の皆さんは嬉しそうな顔で頷いていました。（枝）



森林教室

西東京市立向台小学校 -2-

11月14日(火)、西東京市立向台小学校5年生66名が高尾山で森林教室を実施しました。向台小学校は人数が多いため、10日と14日2回に分けての実施です。

当日の天気は1回目とは打って変わっての秋晴でした。

午前中の森林観察は6グループに分かれ、レモンエゴマの香りに「いい香り」「紅茶の香りだ」など植物の特徴を感じたり、人工林と天然林の違い、色々な樹木の特徴、水がしたり落ちるのを見て四年生で習った「水はどこから来るの」を肌で感じたりしていました。小川では沢蟹探しに夢中になり歓声を上げていました。

午後は、森林学習と丸太切りを2グループに分かれて交互に実施しました。森林学習では、森林の役割や林業、SDGs についての話しを聞きました。丸太切りでは、スタッフからケガをしないように指導を受けながら、輪切りを楽しんでいました。

最後の閉校式では、「森林についてのわかりやすい説明を聞き、一日がアツという間に過ぎました」「丸太切りは難しかった」などの意見が出ていました。

(Ⅲ)



森林教室

相模女子大学小学部

相模女子大学小学部の4年生児童70名に森林教室を実施しました。

午前中は6グループに分かれて1時間50分の森林散策、午後は2グループに分かれて40分ずつ森林学習(座学)と丸太切りを交代で行いました。

先週までは25度の夏日だったのに当日は気温が18度まで下がったためみんなしっかり上着を着て、カイロなどを使い防寒対策ばっちりで行きました。

季節は秋に入り、たくさんの種や実を観察することができました。「くつつきむし」と呼ばれる種子をつける植物を紹介するたびに、大喜びでくつつきあって遊びました。また、イノシシのフィールドサインを見つけるとこんなところにも出るの?と驚いていました。

お弁当を食べて、クラスの集合写真を撮り、午後は森林学習、丸太切り体験を実施しました。森林学習ではスライドを使い森林官の仕事の紹介・高尾山の動物たち・木材の生産など、さまざまなテーマに分けての森林の講義を実施、さらに温暖化をテーマにしたアニメを視聴しました。アニメはとても導入にぴったりだったようで食い入るように見ていました。

丸太切り体験はFSS(フォレスト サポート スタッフ)の方々が丁寧に教えてくれます。切った輪切りは皮を剥いてお土産にします。厚みが様々な輪切りを手に満面の笑みでした。また、年輪について教えてあげると一生懸命数え始め輪切りにした樹木の年齢をあてて楽しみました。(岩)



体験林業

厚生労働省 東京労働局

11月22日(水)、東京労働局の令和5年度新規採用職員15名が当センターを訪れ、体験林業を行いました。この職員は、後に労働基準監督官になる方々であり、労働基準関係法令に基づいてあらゆる職場に立ち入り、法に定める基準を事業主に守らせることにより、労働条件の確保・向上、働く人の安全や健康の確保を図る厚生労働省の職員です。

この体験林業を通じて、作業の安全対策、林業の現状や知識などを学び、地域の労働安全推進のための一翼を担うことになるということです。体験林業では、現場作業の前に一通りの伐木方法の基本や安全対策などについて担当職員から説明を行った後、大平国有林に移動して手鋸による間伐作業を行いました。現地では各班に分かれて指導員が付き、受け口や追い口の基本的な伐り方などを学びましたが、狙った方向に木が倒れない様子に四苦八苦する場面もあり、伐木作業の難しさを肌で感じ取っていたようです。また、伐倒した後には玉切りした細身の丸太を手で持ったりしながら木の重さを確かめていましたが、このような伐倒木が人にのしかかると大変な災害になると感じ取っていたようです。さらに午後には、林業の現状や労働災害などについて学んでいただきました。林業は他の産業に比べて非常に労働災害が多い産業です。現地での間伐体験は半日程度の時間でしたが、今回の体験が皆さんの知識や経験となり、地域の林業労働災害の防止につながっていただければ幸いです。(久)



間伐作業の安全対策等の講義



手鋸による間伐作業

森林教室

中野区立 江古田小学校

11月27日(月)、中野区立江古田小学校5年生85名の森林教室を高尾山日影沢キャンプ場に迎えて実施しました。当日は、紅葉が既に散っている木も目立ち始め、初冬を思わせる朝の冷え込みの中でのスタートとなりました。

午前中は森林観察です。スギやヒノキの葉っぱに触れて違いを確認したり、針葉樹と広葉樹の生長の仕方の違いなどについて学習したり、カヤの葉や既に茎とサヤだけとなってしまっているけど良い香りがするレモンエゴマの匂いに驚いたり、水が滴り落ちる林内で、緑のダムとしての森林の機能についての説明に納得顔で聞いていました。また、小川での沢蟹探しは寒すぎたのか見つけられない班もありましたが、皆楽しみながら森の中を観察していました。

午後は、森林学習と丸太切りです。2グループに分かれて交互に実施しました。森林学習は、管理棟の中で森林の役割や森にすむ動物たちのこと、持続可能な資源である木材を生産する林業について学びました。丸太切りは、キャンプ場の広場でスタッフの指導を受けながら、みんな真剣に一生懸命切っていました。切り落とした瞬間、みんなニッコリ満面の笑みを浮かべ満足そうでした。

朝晩はめっきり冷え込むようになり、そろそろ高尾に冬の足音が聞こえてきそうな中での森林教室となりましたが、寒さを吹き飛ばすような子供たちの歓声がこだまする1日となりました。(瀬)



再生可能な燃料「炭」を作ろう！

炭は、化石燃料とは違い、木を育てれば使った分の二酸化炭素は森に戻すことができることから

「再生可能な燃料」として注目されています！！そして炭はとても万能なアイテム！

燃料、消臭、水をおいしくしたり、飾りになったり

でも、普段の私たちは「炭は買う物」……そんなすごい万能アイテムの

「炭」を自分で作る体験をしませんか？



2024

2 / 10 (土)

高尾森林ふれあい推進センター

日影沢キャンプ場奥の

炭焼き小屋 10:00～15:00

応募は **1月22日(月)** まで



作成風景

↓↓ 応募はこちらのサイトから ↓↓

公式ホームページ
主催イベント
詳細情報→



伏せ焼き窯



編集後記

高尾は朝晩の冷え込みが日に日に厳しくなりダウンコートが手放せなくなってきました。

秋は足早に過ぎ去ってしまった感じです。

もうチョット居てくれても良かったのに～



センリョウ

Forest通信 NO.418

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689

E-mail: ks_takao_postmaster@maff.go.jp

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>



国民の森林・緑を守り